**令和７年度　校内研修計画**

１　学校課題

児童は高学年を中心に全校で集まる場面での集合や整列，学習のきまりなどを守ることができているが，より安心できる環境づくり，集団づくりが求められている。学力については，昨年度の各学年のNRTの分析から，学年によって領域ごとの得点に偏りがあったり，上位と下位の差が大きかったりという学年ごとの課題が見られる。また，個別支援の必要な児童がどの学年にも数名在籍している。

他者と協働したり，自ら自己調整したりして学習を進めていく「子ども主体」の授業への転換を図ることにより，子ども一人ひとりの関心・意欲や特性にもとづいた学びを，ICT環境を活用するなどして実現する必要がある。

２　研究主題

自ら課題を見つけ，自ら解決し，学び合う児童の育成

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた学習実践を通して～

３　主題設定の理由

本校では令和３年度からGIGAスクール構想事業により，一人一台端末が整備され，ＩＣＴを取り入れた対話的な学びの工夫により，確かな学力の定着を目指して研究が行われた。昨年度の研究のまとめとして「個別最適な学び」についてより具体的に深めていきたいという意見があった。

本年度はこれまで培われてきた工夫とともにＩＣＴの新たな可能性を指導に生かしつつ，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り， 学習者中心の授業改善を進めていく。そして，これまでの研究や実践，学習の基盤となる学習環境づくりを重んじつつも，現実的で持続可能な実践や，クラウドを活用した具体的な実践を参考にし，「自ら課題を見つけ，自ら解決し，学び合う」児童の育成を目指し，授業実践を目指したい。

以上のことにより，研究主題を「自ら課題を見つけ，自ら解決し，学び合う児童の育成」，副主題を「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた学習実践を通して」と定め，研究に臨んでいきたい。

４　研究の具体的内容と方法

　　1）授業づくりの研究・・・学習者主体の授業の実現

○教師の学習観，支援や環境，学習過程，情報活用能力について

　・学習形態や学習ツールなどの設定

　　　　・振り返りシート（1枚ポートフォリオ・デジタルも可）・思考ツールの活用

　　　　・板書の工夫

・一人一実践授業

・学習会，文部科学省　LDXスクール事業協力校

○課題解決に向けた取り組み

　　　　　　・先行事例の実践，一人一実践授業，仮説研究型→実践研究型(スキルアップ研修)

2)学びを支える環境づくり

○学級力向上プロジェクト

・学級力アンケートの実施，スマイルアクションの実施，実践紹介

○SGE（構成的グループエンカウンター）・SST（ソーシャルスキルトレーニング）の活用

○家庭学習・自学の取り組み

５　研修計画

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学期 | 月 | 日 | 研究内容 | 形　態 | 担当者 | 講師 |
| １学期 | ４ | ９ | 今年度の方向性について | 全体 | 研究主任 |  |
| １６ | 研究の具体的な取り組み | 全体 | 研究主任 |  |
| ５ | ２１ | スキルアップ研修①  振り返りシート・構成的エンカウンターについて | 全体 | 研究主任  教頭先生 |  |
| ２８ | スキルアップ研修②(修学旅行) | 個人 |  |  |
| ６ | ４ | スキルアップ研修③  指導案の形式の確認・思考ツールについて | 全体 | 研究主任  教頭先生 |  |
| １８ | スキルアップ研修④（一実践に向けて） | 個人 |  |  |
| ７ | ２  一実践（６月～１２月） | 講師を招いての学習会 | 全体 | 研究主任 | ○ |
| ２学期 | ８ | ２６ | 教育課程環流学習会  全国学力学習状況調査結果　考察 | 全体 | 教務主任  各学年担任 |  |
| ９ | ３  一実践（６月～１２月） | スキルアップ研修⑤  （一実践に向けて・一実践のまとめ） | 個人 |  |  |
| １０ | １５ | スキルアップ研修⑥  （一実践に向けて・一実践のまとめ） | 個人 |  |  |
| ２２ | 実践の共有（授業づくり） | 全体 | 研究主任  各学年担任 |  |
| ２９ | 実践の共有（構成的エンカウンター） | 全体 | 研究主任  各学年担任 |  |
| １１ | １２ | 研究のまとめと研究紀要について | 全体 | 研究主任 |  |
| ３学期 | １ | ２１ | 実践の共有（学級力向上の取り組み） | 全体 | 研究主任  各学年担任 |  |
| ２ | ４ | 研究のまとめ・アンケート結果より | 全体 | 研究主任 |  |
| ２５ | 研究紀要作成 | 全体 | 研究主任 |  |

（研究主任　　山下　陽子）